

# 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議 平成 29 年度第 2 回西表島部会 議事概要

■日 時：平成 30 年 3 月 6 日（火） 13:00～15:20

■場 所：竹富町離島振興総合センター

■出席者（敬称略）：

区分	所属	役職	氏名
行政機関	環境省那覇自然環境事務所	上席自然保護官	藤田和也
		自然保護官	杉本正太
	林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署	森林官	高倉博文
		森林官	阿南達也
	林野庁西表森林生態系保全センター	生態系管理指導官	山部国広
	沖縄県環境部自然保護課	課長	金城賢
		主任	志賀俊介
	沖縄県文化観光スポーツ部観光整備課	主任	比嘉允顕
	沖縄県総務部八重山事務所総務課	主任	多和田成子
	竹富町政策推進課	課長補佐	佐加伊勲
係長		仲盛敦	
竹富町教育委員会社会文化課	主事	根原裕美子	
石垣市環境課	係長	慶田城悟	
地元関係団体	竹富町公民館連絡協議会	会長	玉代勢肇
	竹富町商工会	会長	上勢頭保
	竹富町観光協会	委員長	中神明
	西表島エコツーリズム協会	事務局長	徳岡春美
	沖縄県猟友会 竹富町地区	地区長	河合正憲
	いりおもて観光（株）	代表取締役社長	屋宜靖
	（資）浦内川観光	代表者	平良彰健
	NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄	西表診療所・獣医師	飯塚布有子
	NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロール	事務局長	高山雄介
	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設	副施設長	渡辺信
運営事務 （受託者）	株式会社プレック研究所	統括部長	松井孝子
		主査	西村大志
		主査	東広之
傍聴者	15 名		

## ■議 事

1. 地域の重点課題への取組状況について
  - ①「地域社会の参加・協働による保全管理」への取組み状況
  - ②「適正利用とエコツーリズム」への取組み状況
  - ③行動計画の見直し・更新案について
2. 事業の目標・指標の検討について
3. その他

## ■資料

- 資料1-1 「地域社会の参加・協働による保全管理」への取組み状況
- 資料1-2 「適正利用とエコツーリズム」への取組み状況
- 資料1-3 西表島行動計画の見直し・更新（案）
- 資料2 事業の目標及び指標の検討について
- 資料3 世界遺産登録に向けたスケジュールと地域部会の進め方（予定）
- 参考資料1 沖縄島北部における世界自然遺産登録に関する住民アンケートの結果
- 参考資料2 西表島における世界自然遺産登録に関する住民アンケートの結果
- 参考資料3 西表島エコツーリズムガイドラインの検討状況

## ■議事概要

### 議題1. 地域の重点課題への取組状況について

#### ①「地域社会の参加・協働による保全管理」への取組み状況

- 西表島で実施された住民アンケート調査の結果及び普及啓発に関連する事業の取組状況と次年度の予定について、事務局より資料1-1、参考資料1、参考資料2に基づき説明が行われた。
- 質疑応答の概要は以下の通り。
  - ・アンケートの結果が沖縄島北部と大きく違うが、世界遺産になることを望ましいと思う人、望ましくないと思う人について、性別や年齢、職業との対応はどうなっているのか。
  - クロス集計をできるようにはしているがまだ分析しきれていないので、今後ご報告するようにしたい。
  - ・アンケート結果が住んでいて思うことと一致している。遺産登録について望ましくないと思う方のほうが多く、盛り上がっていない。啓発活動としてステッカーやのぼりを作るなどしているが住民にはあまり効果が及んでいない。行政が推進しようとしていることと住民が望むことに明らかな温度差がある。それが何に起因するものと考えているか竹富町と沖縄県にお尋ねしたい。
  - まず住民に世界遺産の情報が入ってきていないことが挙げられる。もう一つは、今の段階でも西表の自然の劣化が感じられており、それに対して行政の取り組みが不足しているままで登録されると劣化が加速すると考えられているのではないかと思う。今後、情報提供を強化し住民の不安を解消するとともに、自然環境の劣化に対する対策を出来る限りとっていきたい。
  - 地域の意識が好意的ではないとは聞いていたが改めてアンケート結果を見てショックを受けた。情報の提供や、意見を吸い上げる仕組みが十分ではないということが一番大きな理由だと考えている。地域への普及啓発を継続するとともに、アンケートのとり方や活用の仕方も検討していかなければならない。
  - 温度差についてはしっかり認識されているようで安心した。情報不足、自然の劣化、行政の取り組みの遅れ、対話の不足、といったことによると思う。西表島の課題についても住民の考えがよく表れており、自然環境の劣化、観光マナーの悪さ、ゴミの散乱、生活基盤の未整備などを課題に挙げている人が多い。特に観光については、夏季にオーバーユースで劣化が進んでいることは認識されており、これからも人が増えて悪くなっていくと想像されている。一方で、地域部会では住民に仕事を割り振っている項目が多いが、これらの課題は住民のせいではなく、取り組むインセンティブがない。また、住民は年間平均所得100万円台で生活している人が多いと考えられる。生活が潤っているわけで

はない人たちに、自分たちのせいではないことに対してボランティアでどれだけ対応してもらえるかという点で難しく、何かインセンティブを設ける必要があると思う。

- ・普及啓発への NPO の取り組みについて情報提供したい。4 月 15 日のイリオモテヤマネコの日の昼からわいわいホールで普及啓発のイベントを予定している。遺産登録 25 年となる屋久島からゲストを呼んで、登録前から現在までの社会的変化、環境の変化、それに対する取り組みを話してもらい、地域住民とディスカッションをしてもらうことを考えている。
  - ・アンケートの回収率が低く、住民の意見を吸い上げて適切に対応できるのが心配である。奄美大島及び徳之島でもアンケートをとっているのなら、その回収率を教えてください。
- 鹿兒島県として横並びで実施してはいないので同様の数字は得られないが、奄美群島広域事務組合が似たようなアンケートを行っているので、その情報が得られたら共有したい。
- 来年度もアンケートを継続して住民の考えを聞いていきたい。沖縄島北部での回収率は更に低く 10% 弱であった。回収率を上げる工夫をする必要があると考えている。

## ②「適正利用とエコツーリズム」への取り組み状況

- 西表島エコツーリズムガイドラインの検討状況及び次年度以降の予定について、事務局より資料 1 - 2 に基づき説明が行われた。
  - 質疑応答の概要は以下の通り。
    - ・適正利用とエコツーリズム推進体制構築に向けた検討会については、島外から来る検討会メンバーも多いのでできればもう少し時間に余裕を持って開催してほしい。

また、どうぶつたちの病院からフィールドへの動物の持ち込みを懸念する意見が出ていたが、猟友会では犬を使った猟をおこなっていると思う。何か対策を行っているのか、県や町と調整しているのか、猟友会の方に確認したい。
- 検討会については、しっかり検討できるように時間設定等を考えたい。
- 島内で犬を使った猟を行っているところが 4 件あり、10 頭ほど使っている。病気の問題については、どうぶつたちの病院と連携してワクチンの接種を徹底している。また、山に入った犬を確実に回収できるように GPS をつけ、海側で実施するときには県道に人を配置し犬が内陸側に行かないようにしている。有害駆除については竹富町から許可をもらって畑の周辺などに限定して行っている。
- 猟友会で扱っている猟犬の数と飼育者については把握できている。西表島では山に犬を放置することもなく、病気等についても猟友会との連絡体制がとれている。今後不足することがあれば相談して対応していきたい。
- 森林部への動物の持ち込みについて、他の遺産地域では基本的なルール・マナーとしてペットを連れて行かないようになっていると聞いている。西表島のツアー事業者でも自主的にペットの同伴を断っている方もいるが、連れて行かせる業者もいる。カヌー組合のルールでは特定の地域でペットの持ち込みに関するルールがあるが、その他の地域にもルールがあったほうがよい。またカヌー組合のルールも十分なものではないと思うので、検討していただきたい。
- ご意見をエコツーリズムの検討会でも共有し来年度以降も検討していく。
- ・先日行われたシンポジウムで観光協会として総量規制を行うかどうかという質問があった。これまでに観光協会でそのような議論はされていないが、地域部会や検討会でルールが決まっていけば、観光協会としてもそれに従ってやっていくことになると思う。もう一つシンポジウムの話題で、ガイドを付けずに山に入る人が増えているという話があった。その数日後に古見岳で遭難が起り、駐在、猟

友会、消防団、医療機関で体制を整えたが、夜中には戻ってきた。申請をせずに山に入ったということで駐在から厳重注意がなされたと聞いている。既にこのようなことが起きており、今後懸念が増えていくと思う。民宿が客の帰りを確認しない場合もある。エコツーリズムの検討会で、レクリエーションで山に入るときには申請はいらないという話もあったが、行政としてこの問題を今後どのように考えていくか。

→総量規制に関する強制力のある取り組みについては、重要な課題だと考えているがすぐ答えの出る話ではなく、検討を継続していく。

→エコツーリズムの検討会では自然休養林となっている仲間川、浦内川、ヒナイ川では届出は必要ないと説明したが、その他の国有林では入山届を出していただくようお願いしている。何らかの対策が必要となれば関係者と一緒に検討していきたい。

→一つの対策として、民宿等の業者から宿泊客に対する案内やインフォメーションを強化するとよい。入山の際の注意事項を示したポスターなどが必要だと思う。行政としてそのようなことにももう少し取り組んでいただきたい。

・浦内川の入口が入山届の提出場所となっているが、ここ1年ほどで、一人で横断道へ行ったりキャンプをしようとする事例が増えており、どのように対応すればいいか悩んでいる。また、エコツーリズムの検討会の現地視察で、明らかにオーバーユースであり各エリアが限界に近づいていると感じられた。利便性だけを考えてフィールドにカヌー等が放置されている。エコツアーは少人数が基本だが業者数が多いため多くの方が一斉に入り、自然に大きな影響が出ている。一つの要因は業者の数が爆発的に増えてコントロールできていないことなので、まずはガイドの登録制度をしっかりと作って、現状を見ながら少しずつ増やすようにしなければ収拾がつかなくなる。

→非常に重要な課題で、調整しなければならないことが多い。来年度もエコツーリズムの検討会を継続するので、その中で引き続き議論していきたい。

### ③行動計画の見直し・更新案について

○西表島行動計画の見直し・更新（案）について、事務局より資料1－3に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

・希少種の保護条例の制定について、誰が取り締まりを行うのか。警察が希少種について把握して、採られた際に取り締まるのか。あるいは誰か監視員がいてその通報により取り締まるのか。

→県の条例はまだできておらず、6月の議会への上程に向けて作業を進めている。監視員のようなものも置こうとしているが、逮捕権はないので指導や注意を行う仕組みになると思う。他の県の事例などを勉強して実際に希少種の保護につながる仕組みを検討していきたい。

→竹富町では自然環境保護条例を昨年4月1日に改正施行し、特別希少野生動植物等を許可なく採集すればかなり重い刑罰が課される条例となった。ただし、どのように取り締まるかについてはまだ課題として取り組んでいるところである。刑罰を適用するときには警察の介在が必要となる。監視体制としては、野生動植物保護推進員を置いて情報を集めていただき、法令に触れそうなことは警察や竹富町に通報していただきたいと思っている。専門的な知識がないと対応できないので、講習会等を持ちながら推進体制の構築に取り組んでいきたい。

→警察の担当者は2,3年で変わってしまうので、貴重な生き物かどうかという判断が警察にできるものかどうか疑問である。

→一般的な話だが、法律等における希少種について警察が全て判断するという事はない。有識者の方

にご意見を伺った上で、所管する行政機関が法律、条例の解釈を行い、警察と相談して事件化するかどうか話し合っていく。竹富町では推進員を設置して、何か事案があった時に行政や警察に相談が行き、そこからどう対応するか決めていくことになる。そういった協力体制を警察等を含めて今築いているところである。

→先日駐在と条例の話をしたが、そういったことが伝わっていなかった。竹富町の条例が施行されている中でそれでは困るのではないかと思った。また、営林署は関係するののか。

→我々には捜査権がないので、捜査権を持つ警察との協力が必要であり、竹富町では条例の運用のための調整が今後されていくと考えている。森林法等については営林署が関係してくる。

- ・10月の意見交換会でもIUCNは西表島の観光のマスタープランがないことについてかなり気にしていたので、このように観光マスタープランについて議論されていくのはIUCNの評価にとってもプラスになると思う。竹富町の観光振興基本計画にそれを盛り込むのはよいことだと考えている。国立公園でも保護と利用の指針を定める管理運営計画を検討しているところであり、その中に観光マスタープランに関する議論の内容を盛り込んでいけたらと考えている。環境省としてもこの検討に重点的に協力したい。

## 議題2. 事業の目標・指標の検討について

○事業の目標・指標の検討について、事務局より資料2に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・指標設定の案の中で、例えば適正利用とエコツーリズムのモニタリングの項目について、事業の実施時期は長期で重点的に実施することとなっているが、データの取得期間・頻度のところには平成29～31年度と事業年度がそのまま書かれている。平成32年度以降も予算が取れる前提で長期と書かれていると考えてよいか。

→この事業自体は3年間であり平成31年度で終了する予定だが、3年間の中でモニタリング体制を構築することとしているので、どういった主体がどういった予算措置の中で継続的に実施できるかということも含めてこの事業の中で検討・体制構築を行っていききたい。

→他の項目についても、それが整合しているべきである。長期で実施すると書いてあれば予算がつくものとするので、そのようにできるよう検討をお願いしたい。

- ・行動計画の内容は現在ソフト面がほとんどである。提案として、ごみ処理、水道や電気の供給、下水処理対策等、ハード面の行政の対応を今後併記していただきたい。入域観光客数を増やそうという事業なのに、竹富町などのそういった動きが全くわからないということがこのようなアンケート結果につながっていると思う。インターネットの光回線化が検討すらされておらず、大学施設でも電話が繋がらない場合があるなど、全然インフラが足りていない。その他、浦内川の水道管があまり使われなまま老朽化しつつあることや、上原港でのテトラポット投入による濁りなどの問題もある。県や町にしかできない事業の進捗状況について、全て細かくとは言わないが特に世界遺産としてのイメージや実際の審査に関わるようなものについては、行動計画に併記していただきたい。

→行動計画は昨年2月に推薦書と併せて提出したが、遺産登録後も適宜フレキシブルに改定していくことができる。インフラの整備等については、行動計画の項目としては入れなくても情報として入れることはできるのではないかと思う。地域の環境をどう守っていくかということに関する情報共有は重要なので、他地域の事例も調べつつ、対応について検討したい。

→世界自然遺産になるにあたってみんなでいい島を作ろうという時に、旗振り役の竹富町の取り組みぶ

りを示すいい情報開示になると思うのでお願いしたい。

- ・希少野生動物の傷病個体の救護体制の確保の項目について、評価指標が追加されているが、今後別の指標も入ってくる可能性はあるということか。
- 現在は沖縄県自然保護課が示せる指標の案を示しているが、行動計画については毎年検討、見直しを行っていく。次年度以降皆さんに照会を行って、利用できるデータや修正案についてご意見をいただき、修正、見直しをしていきたい。
- 目標が体制の確保とされているので、救護実績という評価指標で体制の確保について適切に評価できるのか疑問に思っている。施設や設備、人員といった点で評価をしなければいけないのではないか。現在の救護体制は十分ではないと考えている。事業の一環ではあるがほぼボランティアのような状態で救護治療を行っている。また、治療ができるのはほぼ私だけであり、不在の場合や長い目で見てもっと先にどうしていくのか心配である。飼育についても、野生生物保護センターにかなりお願いしているが、どうぶつたちの病院だけで全ての野生動物を引き受けることは難しい。そういったところをご相談しながら改善していきたい。
- 多くの項目があり、すべての項目に適切な指標を設定するのが目標だが、なかなか難しい。今日で了解を取るということではなく、考え方の案として示している。これも踏まえつつ各主体における指標のあり方やモニタリングに使えるデータについて今後照会をかけたいと考えているので御協力をお願いしたい。照会結果とご意見を踏まえながら整理を行い、できるだけ早く行動計画の進捗をしっかりと管理できる形にしたい。指標については定量的に把握することが望ましいが、それができない場合もある。救護実績に関する評価指標がこれでよいのかどうかについても、情報照会を行った上で、再度地域部会において確認したいと考えている。

○これまでの議事についての質疑応答が行われた。その概要は以下の通り。

- ・2月に行動計画が提出されて、現在までに指標の検討がこれだけしか進んでいないというのはあまりにも遅い。本来なら現段階で指標設定ができていて平成30年度から行動計画が運用される状態であってしかるべきである。もう少し迅速に進めていただきたい。
- もっともなご指摘である。4地域共通のモニタリングの考え方について環境省主導で並行して検討を行っているので、それとの整合を図るということもある。時間がかかっているが適切な指標設定をして行動計画の進捗をしっかりと管理できるように進めたい。
- ・遺産登録の時期が迫っているが、窓口を一本化できる対策室のようなものを設ける予定はあるのか。以前から発言していたが、どの機関が何を担当していて、誰に連絡していいのかわからない。例えば観光客にしても、ある山に入る時に入山届が必要なかわからないし、それを示す地図等がどこにあるかもウェブサイトを見てもわからない。人が立ち寄れる場所でも電話窓口でもいいが、案件を聞いて適切な問い合わせ先を教えてください、関係機関に問い合わせて後日回答してくれたりといったように、世界遺産に関する案件ならここに連絡すればよいとわかるようにしておくことが望ましい。
- ご指摘の点は行動計画の情報発信と活用の項目にあたると思う。具体的な事業としてはまだできていないが、一元的に情報を集約して発信できるような体制を国や竹富町と協力して作っていきたい。
- 例えば6月までに電話番号を決める、ウェブサイトを開発するなど、期限を決めたほうがよいのではないか。また、他の方からも意見が出たが、関係者が2、3年で入れ替わってしまい引き継ぎもできず意識共有も難しい。5年の出向にするとか、あるいは各行政組織からの出向者で構成する対策室の

ようなものが西表島に一箇所あるとよい。西表島内にあれば直接行って相談ができる。現在は行政機関の人員のほとんどが西表島にいない。それくらいは最低限やらないと混乱が起きそうな気がする。→すぐにできるものではないが、運営を行っていく主体が必要だと考えている。

### 議題3. その他

○世界遺産登録に向けたスケジュールと地域部会の進め方（予定）について、事務局より資料3に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

・3月17日土曜日の13時から、ここ竹富町離島振興総合センターで科学委員会の沖縄WGを開催する。西表及び沖縄島北部の行動計画に有識者から意見をいただくことを予定している。また、3月26日は地域連絡会議を那覇で開催する予定であり、首長に出席を呼びかけている。（環境省石垣自然保護官事務所）

・IUCNの現地視察の後に質問が来て、環境省と県で対応して資料の提出等をされていると思う。その内容についてこの場で共有されるのかと思っていたが、そうしない理由は何か。IUCNに直接意見が提出されるなどして横やりが入るのを懸念しているということか。

→IUCNからは、意見というよりは、既に提出している推薦書について十分に理解できない部分についての照会をいただいております、2月28日にIUCNに回答を提出している。その内容について公表しないのは審査の進行中であり公平性を期すためだと聞いている。西表に関してIUCNが気にしていることは10月の意見交換会で指摘されたように、観光に関することだと考えている。私の聞いている情報では、IUCNの質問は西表に特化したことではなく遺産全体に関することだったとのことである。

→先日の琉球新報にIUCNの質問として6項目が掲載されていた。前回のフォーラムでは審査の公平性を期すためとして出していなかったのに琉球新報に出ていたという一貫性のなさが不信感を生むと思う。

→琉球新報がどこから情報を得たのかわからないが、環境省から文書の内容等は知らせておらず、その情報が正確かどうかかわからない。環境省としては一貫して公表しないというスタンスである。

→IUCNの質問に関する問い合わせには環境省の本省で受け答えをすることとなっており、マスコミ等から県にそのような問い合わせがあった場合は環境省に聞いていただくようお願いしている。環境省からは審査の公平性を踏まえた情報共有とするために細かいところまでは共有されていないのだと思う。

・拠点整備構想検討会が2回開催されているが、その後の進捗状況と今後の予定についてお聞きしたい。

→もし登録されれば、遺産センターを作ることはあり得るが、現時点での優先度としては奄美、やんばる、徳之島を優先することとしており、西表で箱物を作るという計画は環境省では一切ない。

→沖縄県で昨年度に拠点整備構想検討会を開催し、西表でどのような施設が必要かということについて観光関連の事業者と協議を行い、それを踏まえて拠点整備構想を作成した。しかし、具体的にどこに何をつくるかということについては決まっていない。環境省の方針もあり、施設等が必要なのか、引き続き皆様と話し合いながら検討していきたい。また、今後の会議等の開催予定は未定である。

・開催時間がずれる場合があるので、確定した時間をご連絡いただきたい。

○次年度早々にモニタリング情報の照会をかけさせていただくので、ご協力をお願いしたい。（沖縄県自然保護課）

以上